



NAMIE WATER～復興のチカラ水～ (地元の中学生と協働したPR活動について)

福島県浪江町

1. 抱えていた課題

福島県浪江町は東日本大震災および福島第一原子力発電所の事故により、全町避難となった。「震災の影響により、放射性物質が水道水にも悪影響を与えているのではないか」と風評被害が広がった。豊富で良質な地下水(阿武隈山系の伏流水)を水道水として供給し、軟水で非常に飲みやすいと評判であった。風評払拭のため、安全で安心、美味しい、町の資源である「水」を復興のシンボルとして商品化した「NAMIE WATER」をテーマに、町のPRを行いたいと地元の中学校(なみえ創成中学校)から相談があった。

2. 広報活動概要

これまでも「NAMIE WATER」は町内外での店舗やイベント出店等を通して、PR販売活動を行ってきたほか、モンドセレクション3年連続金賞受賞などをきっかけにマスコミを通じ、広くPR活動を行ってきた。しかしながら、町だけのPRでは限界があった。中学生は総合学習の授業で町の活性化について取り組む際に、「NAMIE WATERのPR」をテーマに掲げ、浪江町役場住宅水道課に協力を依頼し、1年間をかけて、町職員と共にPR活動に取り組んできた。

今回の中学生との協働を通じ、新たなPRポスターを制作。ポスターについては職員と中学生がともに町内を回り、撮影場所の選定からデザインまでを一緒に制作してきた。また、中学生が自ら撮影、演出、編集等を行ったPR動画を作成した。生徒の発案で、ポスターにQRコードを載せ、作成したPR動画を読み取ることができるようにした。



中学生が住宅水道課の職員へプレゼンを行う様子

3. 広報活動の狙い

浪江町の水の安全、美味しさを広く周知するだけではなく、町の中学生在主体的に取り組むことで、風評払拭や町の復興のアピールに繋げることができた。また、一度は全町避難になったことから、生徒たちの多くは避難先や浪江町外で過ごした時間が長く、親の帰還や移住等で浪江町に住むこととなったため「ふるさと浪江」の意識が薄かったと考える。

このPR活動は安全・安心で美味しい水である「NAMIE WATER」をより多くの方に周知することだけではなく、中学生自身が積極的に浪江町を知り、実際にPR活動に関わることで「ふるさと、地元意識」を醸成することができる有意義な活動となった。

浪江町公式Youtubeチャンネルにて公開中

学校編



請戸浜編



中学生自らが撮影編集を行い、制作したPR動画



町内を回り
請戸浜で撮影



中学生自身がデザインしたものをPRポスターに

4. PRポイント

【中小規模水道事業者ならではの取組】

この事業は町民と協働してPR媒体を作成した好事例である。

単なる事業のPR活動にとどまらず、中学校の授業の一環ではあったものの、「浪江＝ふるさと」という意識まで醸成できたのは小規模事業者ならではの「互いに顔の見える、意見を言い合える関係性の構築」によるものと考え。また、教育視点においても、実際の社会の中で、「発案・問題提起・実践・振り返り」を通して、「生徒たちの想いが形になる」という経験は、非常に有意義なものと考え。

【展開性・汎用性】

・PR媒体の作成で悩む自治体、事業者は少なくない。

中学生と共にPR媒体制作に取り組むことで、そのステークホルダーにも商品の魅力を訴求するものを作り上げることができた。地域を巻き込み、共に取り組むことで「地域資源の価値の再発見・魅力発信」ができるのは当町に限ったことではなく、他の事業者でも同様に取り組みを行うことができると考える。



中学生へ完成したPRポスターの贈呈